

日本機械学会東海学生会（平成23年度）

第1回顧問会議事録（案）

開催日時：平成23年6月11日（土）11:00～13:00

開催場所：名古屋大学工学部2号館 航空宇宙会議室（名古屋市千種区不老町）

出席者

大学・高専名	氏名(敬称略)
愛知工科大学	椎名保顕
愛知工業大学	北川一敬
岐阜工業高等専門学校	小栗久和
岐阜大学	服部敏雄
静岡大学	藤井朋之(代理:真田 俊之)
静岡理工科大学	野崎孝志
鈴鹿工業高等専門学校	打田正樹
豊田工業高等専門学校	林 伸和(代理:中村裕紀)
豊田工業大学	川西通裕
豊橋技術科学大学	関下信正
名古屋工業大学	松本健郎
名古屋大学	山田陽滋
沼津工業高等専門学校	小林隆志
三重大学	中西栄徳
東海支部庶務幹事	巨 陽(名古屋大学)
東海支部運営委員	長田 孝二(名古屋大学)
東海学生会 担当幹事	末次正寛(鈴鹿高専)
東海学生会 担当商議員	野崎孝志(静岡理工科大学)
東海学生会委員長	森 雅史(鈴鹿高専)
東海学生会副委員長	大西悠揮(鈴鹿高専)

(以上 20名)

議事

- 平成23年度会員校、顧問および運営委員名簿 ⇒ 確認（未定：名城大）
- 平成22年度第4回幹事校会・学生会員校第4回運営委員総会議事録 ⇒ 確認
卒研発表会の登壇者資格は、「原則学生員とする」を継続する。但し、Best Presentation Awards の推薦者については、学生員（手続き中も含む）とすることが確認された。なお、近年の実際の状況調査が必要であることが話し合われた。
- 平成22年度（第59期）事業報告および収支決算報告 ⇒ 確認
 - ・二つの見学会の時期が年度末に重なってしまった点について、改良が必要との意見が出された。
 - ・見学会や講演会の企画が、事実上各大学単位で実施されており、横の繋がりが乏しい点についての改良について、以下のような意見が出された。
 - (1) 時間に余裕を持って企画を立て（できれば1年間分）、早め（少なくとも1, 2ヶ月前）に各大学へ宣伝をしてはどうか。
 - (2) 学生員へ直接メーリングアドレス等を使って宣伝、通知できないか。
 - (3) 現状の実施回数（見学会2回、講演会6回）に捉われず、回数を減らしてでも多くの大学が集まる企画にしてはどうか。
 - ・収支決算でかなりの割合の繰越金があるが、「特定積み立て資金」等の処置をとらなくても良いのか

を確認する必要がある旨、発言があった。

4. 平成 22 年度「メカライフの世界展」実施報告 ⇒
全 9 校の取り組みについて確認（全参加者数：3110 名）
5. 平成 23 年度事業実施方針・担当校
幹事校：愛知工科大、岐阜大、静岡理工科大、鈴鹿高専、大同大、三重大（以上 6 校）
見学会：豊田工大、愛知工業大（以上 2 校）
講演会：名古屋工大、名城大、豊橋技科大、岐阜大、三重大、静岡理工科大（以上 6 校）
卒研発表会：名古屋工大
島山杯ソフトボール大会：グラント借用可能校がほぼ皆無である点等も考慮し、学生と相談の上ソフトボール以外の種目で実施することも検討することとなった。
6. 東海学生会歴代役員校・役員名および歴代事業分担表 ⇒ 確認
7. 東海学生会各種行事分担要領 ⇒ 確認
本年度も講演会の交通費については、5000 円を超えても実費で支給することが確認された。
8. 平成 23 年度東海学生会事業計画・日程 ⇒ 確認（上記 5 のとおりの担当で実施することを確認）
9. 平成 23 年度（第 60 期）収支予算書 ⇒ 確認（収入・支出予算額 ¥3,584,534）
10. 平成 23 年度「機械工学振興事業資金助成（メカライフの世界展）」採択校 ⇒
静岡大、三重大、豊橋技科大、愛知工科大、沼津高専、岐阜高専、愛知工業大、豊田高専
中部大、大同大、鈴鹿高専（以上 11 校）
なお、助成金総額は ¥340,000 であり 1 校あたり ¥30,909 となるが、学生会予算より ¥100,000 を補充して 1 校あたり ¥40,000 を助成することとなった。
12. 平成 23 年度学生員卒業研究発表講演会について ⇒
講演会開催日：平成 24 年 3 月 14 日（水）
会場：名古屋工業大学
講演募集：平成 23 年 9 月ごろ
研究発表申込み締め切り：平成 23 年 12 月ごろ
発表原稿締め切り：平成 24 年 1 月初旬
ワークショップの演題として何か良い案があれば連絡をお願いしたい旨、幹事より発言があった。
13. 東海ニューズレター（支部と合併）の発行について ⇒ 確認
14. 入会還付金の取り扱いについて ⇒
還付金の金額や期限についてはこれまでどおり（金額：¥1,000、4 月 1 日～12 月 31 日〔手続き中含む〕）とする。なお、手続きについてはとりあえずこれまでどおり（紙ベースで各校の顧問から幹事へ提出された申請書で処理する）とするが、例えば「事務局から一括で本部へ問い合わせる」等の手段を検討することとなった。また、3 項の(2)と関連するが、学生員のメーリングアドレスを本部から入手できるかも検討することとなった。
15. 東海学生会規約および日本機械学会通則 ⇒ 確認
16. その他、意見コメント等
 - (1) 機械工学へ意識の高い低学年から学生員へ取り込む工夫（○○コンテスト等のイベント）を行なってはどうか。
 - (2) 顧問に企業の方をお願いし、風を入れてはどうか。
 - (3) 活発な学生会活動を行なっている支部（関東支部？）へ、当学生会運営委員を派遣して状況を視察させてはどうか。また、その際は旅費だけではなくある程度自由になる予算を組み、積極的な姿勢で取り組ませる必要がある。

- (4) 現在年度末に卒研発表講演会を実施しているが、秋あたりに中間発表講演会を（も？）行い、多方面からの意見を研究の早い段階で聞き、卒研へ取り入れさせてはどうか。
- (5) 大学単位で6回行なう講演会の回数を減らし、多数校が参加する講演会を実施してはどうか。
- (6) 顧問の任期を現在の1年から2年へ延長し、各種行事の見直しや行事予定（例えば年間の予定）の早期決定を行い、時間に余裕を持って周知・宣伝等を行なってはどうか。

以上